

チームの目標

A 班

独居生活が再開できる。

目標を達成するためのアプローチ

- 栄養面を家族・サービス用いて補える
- 自宅内基本動作自立できるように環境をととのえる
- 屋外に行ってしまった場合の歩行補助具を導入
家族指導の実施
- サービスを用いて独りの時間を過ごす。

チームの目標

B 班

安定した独居生活を維持することができる。

目標を達成するためのアプローチ

- 褥瘡処置の為に訪問看護を導入する。
- 眼科受診のサポートとして家族の力を借りる。
- 配食から始め、ヘルパーにつないでもらう。
- 転倒リスク防止のため、福祉用具を導入する。

チームの目標

C班

安定した生活の再開

目標を達成するためのアプローチ

・ 3食しっかり食べられる

→ 配食・訪リハによる買い物・調理・栄養指導
ヘルパー・娘の協力・配膳台付きの歩行器



通院・外出(買い物)・生活動作の安定

につなげていく

チームの目標

D班

独居生活の再開！

目標を達成するためのアプローチ

褥瘡をなおす → 栄養指導、訪看のケ了。

視力障害対策 → 眼科受診

転倒対策 → 訪内リハ、自主トイレ指導、
環境整備。

チームの目標

E 班

褥瘡の改善と再発を予防することができる。

目標を達成するためのアプローチ



◦ 布団が良くない
→ ベットに変更
マット(予防)を張り

◦ 買い物サポート
→ ひとで「最新?」に
checkし
人々いっしょに行くと行く

◦ 栄養状態が良くない.

服薬影響? 口腔内環境が不良にしたりもあり

→ Faに采ってもらい何日分が ~~←~~ つくると、声かけ
配食サービスも利用

◦ 皮膚の衛生カンリ

→ 訪看に check

入浴状態を声かけカンリ(自給生を重んず)

(E班)

チームの目標

F 班

栄養状態を改善・維持し、褥瘡の治癒を目指す。

目標を達成するためのアプローチ

・ベント・マットレスの導入

・家族に調理の依頼

・Nsによる栄養指導+褥瘡改善指導

・訪問看護週7

・デイサービスとデイケアに変更

・訪問リハ（機能維持）

・環境調整

・歩行器導入（転倒予防）

・褥瘡ケア用品（座位時の体圧分散）

・筋力・体力維持のための自主練指導

・健康管理（禁煙・体動記録等）

チームの目標

生活習慣の改善

G 班

目標を達成するためのアプローチ

- ・ 訪問看護の中で、機能改善を図り、リハビリの提案。
- ・ リハビリの中で本人の希望である外出の機会を増やし、自立を目指す。
- ・ 家族との関わりを増やす。(役割りをふりわけろ)
- ・ 食事の管理について、家族やサービスの利用を提案する。

チームの目標

H班

自宅で転倒なく過ごせる

目標を達成するためのアプローチ

- 訪問看護で 背伸び等の運動も実施していく
- ☆ ○ 本人が「どのような生活をしていたか 訪問看護で信頼関係をうけて、引き出し、家族とも共有していく。
- 家屋調査をして 環境を把握していく
- サービスの必要性などを 継続して説明

チームの目標

I 班

褥瘡を治して、自立するぞ”!

目標を達成するためのアプローチ

本人と目標を共有する (本人 ↔ 訪問看護)

- ・ 訪看に褥瘡から介入してもらい、ADLへつなげる。
- ・ 家族への指導
- ・ 住環境の整備、栄養について

チームの目標

J 班

悠々自適に暮らせるためのアプローチ

目標を達成するためのアプローチ

~~現病課題を整理していくために~~、本人・訪問介護・看護・ケアマネを通して整理していく

・転倒しないような環境調整

・専門分野の人たちから問題点を提示してもらい共有
↳ 屋外に実際に行く

・ご家族がサポートしていただけるような関わり ← ご本人の状況を理解してもらった上で

チームの目標

K 班

買い物に1人で行くことができる

目標を達成するためのアプローチ

買い物のための歩行補助具や手段の提案

眼科受診を促す

訪問リハの提案(周辺の環境,危険場面の確認)

家族をまき混んで一部は協力を得る

チームの目標

本人が望む
悠々自適な独居生活

1 班

目標を達成するためのアプローチ

- ・ 褥瘡の改善 栄養面 (喫煙) じこけ 予防具 褥瘡
- ・ BMI 16.5 → 19.6 (+4kg)
- ・ 買い物に一諸に行く ADLの改善 訪問 訪問
- ・ 家族との夕食
- ・ 環境整備

チームの目標

M 班

一人暮らしを続けることが出来る。

目標を達成するためのアプローチ

- ①褥瘡治療：栄養面の改善/傷の処置
- ②家族を通じてサービス利用の促進
- ③環境調整